



### CONTENTS

「2012年のバトンタッチ」.....	01
ぷれいす東京 2011年度総会・活動報告会 .....	02
NLGR+ .....	04
長期療養時代シリーズ.....	05
ネスト・プログラム.....	07
部門報告(2012年4～6月).....	08
2012年度 新人ボランティア合同研修・オリエンテー ションのご案内 .....	12

## 「2012年のバトンタッチ」

ぷれいす東京代表 生島 嗣

ぷれいす東京は1994年に、池上前代表を中心にHIV陽性者支援、電話相談などで活動する仲間たちで設立された。その後、2000年には特定非営利活動法人となり、現在の事業規模からすると年間予算は決して十分とは言えないが4000万円を超え、専任職員2人、パートタイム職員7人、ボランティア・スタッフ約200人という団体に成長した。

私たちは、「自分らしく生きること応援します」をモットーに、HIV感染不安への電話相談、陽性者/パートナー/家族への電話や対面による相談活動、グループ・プログラムの提供、女性/ゲイをターゲットにしたHIVを含むセクシュアルヘルスの支援活動、研究活動やweb、冊子による情報発信など、多様な活動を展開している。

初代事務所は、高田馬場駅前から、さかえ通りに入り、ピンサロの呼び込みを横目に、パチンコ屋の角をまがり、神田川をわたった少し先の住居用マンションの一部屋にあった。外国人の住人も多く、多様性に満ちあふれていた。部屋は1LDKで、玄関からリビングまでの壁は、ド派手な絨毯のような壁紙に覆われ、床は毛足の長い絨毯が敷き詰められていた。唯一の和室は、座卓をならべて感染不安の電話相談を受けたり、来客スペースとして利用していた。

当時の事務所は、今に比べるとノンビリとした雰囲気だった。週2回の感染不安の電話相談、週1回のゲイグループの電話相談、パディスタッフの派遣、別場所にあったネスト(ランチサービスや洗濯サポート等)運営が活動の中心だった。まだ、治療が難しい時代であったので、多くの方々を見送らなければならない厳しい時代でもあった。

僕は会社員として働きながら、その合間にボランティアとして事務所に通っていた。その後、1995年には、フルタイムスタッフに誘っていただき、参加することにした。収入は、会社員時代に比べると激減するが、それよりも、自分のセクシュアリティを前提として、必要とされている環境が当時の自分にはうれしかった。その後、通信で社会福祉士の資格も取ることにした。

あれから18年という年月が経過した。

現在の事務所は、常時数人のスタッフがつめており、電話や来客の対応もひっきりなしだ。それに加えて、陽性者や周囲の人むけのフリーダイヤルによる電話相談、陽性者等の来所相談もある。また、並行して、別場所の多目的室でプログラムが開催されたりする。週末には電話相談員、パディ、ゲイグループ、研究などの会議が開催されるなど、多くの人たちが出入りする。1996年以降、治療技術の進歩により、HIVと共に暮らす人たちのニーズも大きく変化し、支援の有り様もその時々で変化してきている。

今年度5月の理事会にて代表の交代が決まり、総会にて承認された。これまで、池上前代表からは、何度か「そろそろ代表を交代しましょう」との耳打ちがあったが、その度に、「自分には荷が重い」とそれを固辞し続けてきた。しかし、問い続けられるなかで、一世代上の池上前代表からバトンを受け取るとすれば、そろそろかと思うようになった。

これまで、外向きスポーツパーソンを池上前代表が、現場を生島が分担という形であった。今後は運営の舵取りを有能なチームリーダーを中心としたものから、事務局というチームによるものにシフトしていきたい。

この18年という時を経て、ぷれいす東京は、非常に幅広い活動を展開しており、優秀なスタッフ、ボランティアが集まってきている。職員は、常勤2人のほかに非常勤で、彼らは、ぷれいす東京のシフトを維持するために、他の仕事の掛け持ちをしつつ、縁の下で活動を支え続けてくれている。

活動の広がりによって比較すると財政的な基盤は非常に脆弱で、加えて昨年は、寄付収入の落ち込みが大きく、現在の活動水準を維持するのも厳しい状況となってきている。今後は、多くの市民や企業にオープンに呼びかけを行い、地域社会に必要なリソースとして、寄付を受け取りやすい仕組みづくりが大切だと感じている。

そして、僕から次世代にバトンを渡す日がいつ来るだろう。その時までには、財政基盤をより強化しておきたい。それは難しいことではあるけれども、皆様の力添えを得ながら、実現に向けて歩いていきたい。

# ぷれいす東京 2011年度総会・活動報告会

総会・活動報告会が5月27日に行われました。今回の活動報告会は新宿区戸塚地域センターで開催され、参加者・スタッフ合わせて79名の盛会となりました。

総会では、社会情勢や行政の変化とともにぷれいす東京が財政的にも運営面でも困難に直面していること、難局を乗り越えるため多くの協力を必要としていることが共有されました。また、代表が池上から生島へ引き継がれることが正式に承認されました。

活動報告会では、まず前半には、恒例のリレー式部門報告が行われました。各部門数分ずつという限られた時間の中で、いきいきと日頃の活動が凝縮して報告されました。



満員の会場

後半のトークコ

ナーは、この活動報告会をもって代表交代となる池上による「エイズと私の30年」。性とエイズにかかわり続けて現在に至る過程が、貴重な画像がちりばめられたスライドとともに語られました。

様々なバックグラウンドを持った大勢の参加者の中から、7名の参加感想文をお届けします。

## 「共に生きることのビジョンと実現」

SWASH(Sex Work And Sexual Health) 婁 友紀子  
今回恥ずかしながら、初めて参加させて頂きました。

池上千寿子さんとは2000年、中国の珠海でセックスワーカーサポートグループが集まった会議で通訳としてご同行頂いたのが最初の出会いでした。今思えばなんて豪華な通訳! と思います。(当時23歳の何も知らない子どもでしたので許してください。)その後私が12年間諦めず活動を続けてきたのは、中国で池上さんから頂いたアドバイス、「とにかく続けるということが大事」という言葉を信じてきたからでした。

そんなことを思いながら、報告を聞いていました。ぷれいすの相談業務、支援内容は、当事者のプライバシーに関する不安、身近な人との関係、将来設計、薬や治療、病院のことなど、私たちの取り組む課題と似ているテーマや内容が多く、学ぶところ大です。

また、当事者の多様なニーズに対応した取り組みも、活動のきめ細かさを感じます。人々がHIVや当事者について理解を深めると同時に、ぷれいすがどんな活動をしているか知ることもまた、共に生きることのビジョンと実現可能性を教えてくれると思いました。そんな活動をこれからも目指したいと思いました!

「協働の仲間なんだあ!」

NPO法人CHARM「ひよっこクラブ」しゅん

ぷれいす東京の活動報告会、5年ぶりに参加をさせていただきました。スタッフのみなさんとは、関西で実施している「ひよっこクラブ」の立ち上げのサポート、ファシリテーター研修をしていただいた時からのお付き合いなのですが、なんとというか、学び舎に帰ったような、ボクも関西でなんとかやってま〜すみたいな、ほっこりした気分で参加をしました。

いつもすごいと思うのは、多様なニーズを持った人々のために用意されている、ネスト・プログラムの種類の多さです。中でも印象に残りましたのは、HIV/AIDSを支える母親のためのプログラム「もめんの会」の存在です。私もHIVポジティブのひとりなのですが、周囲で見守ってくれている友人や家族、中でもお母さんってたいへんだらうなと思うんです。「うちの子は最近こうなんやけど大丈夫やろか」みたいな会話を安心してできる場所があるってすごい。各地で開けるといいだろうなと思います。

また、報告会後半、池上さんの講演の中で触れられていました、1994年のGIPA宣言について「HIVポジティブの人々は支援の対象ではなく協働の仲間なんだ」という「協働」という言葉がすごく心に残りました。協働、そう大切なことだなと思う反面、それがなかなか簡単じゃないんですよーっていう気持ちで聞いていました。活動を継続していく中で、こんなホンネの話しができる環境も作って行けたらと、この1年の目標にしたいなと思いました。

スタッフのみなさま、貴重なお話をありがとうございました。いつもお疲れさまです!



ホットライン部門の報告(左から、佐藤、萩原、岩橋)



Gay Friends for AIDSの報告(左から、sakura、ヤマコ)



物販コーナー(左から、佐藤、伊澤、池上、大槻)

「島に留まる」 沢部ひとみ(パフスクール代表)

活動報告での池上千寿子さんのお話(「エイズと私の30年」)で、ぷれいす東京の活動が、ハワイでのハンセン病看護の思想と方法論に基づくことを知った。19世紀、ハンセン病患者が隔離・放置されていたモロカイ島に渡ったダミアン神父は、患者を排除するのではなく、ともに暮らし、プラスバンドや学校を始めて、彼らが最期まで日々を楽しんで過ごせる生活環境を整え、自身もハンセン病に倒れたという。

自分がたまたま居合わせた時代に、どんなにしんどい役回りを担わせられても、そこに踏み留まり、最善を尽くした人物、その人の意思が100年以上後のエイズ患者とその支援者に受け継がれている事実に、深い感銘を受けた。

現代はこれほど情報過多な社会でありながら、性にまつわる問題は、あい変わらずタブー視され、歪められ、人々は実体のない「常識」に縛られている。目の前の問題を否定せず、冷静に見つめること、その現実をわずかでも改善しようと日々を全うすること、それがわたしたちの島に留まる道なのだろう。

「ぷれいすの脈動を聞いた」

城平 海(きひら・かい 小説家)

日ごろ諸々お世話になっているぷれいす東京さん。池上氏のトークを楽しみに報告会に参加した。ユーモアを交えて語られる『エイズと私の30年』に、私は自分の30年を重ねた。

エイズなど遠い世界の話だった10代、幾人かの知人が倒れた20代、深刻さが増した30代。そして課題は多いものの、社会も当事者も落ち着きを見せている現在。その変化の陰に「社会と患者・感染者の協働」を目指す池上氏と多くの人々の努力があったことを今回再認識した。多様なサポート体制が多くの人々を支えていることも。

前半に行われた各部門スタッフ各位による個性豊かな活動報告と合わせ、外部からは見えづらい努力を続けるぷれいす東京の着実な歩みを肌で感じた。どんなドキュメンタリーよりも胸に迫る報告会だった。

「Living Together」—この言葉の重みを今あらためて考えている。現在と将来の自分にとって大変有意義な時間だった。

「若い力が芽生え支える『ぷれいす東京』」

日本性教育協会 本橋 道昭

5月27日、私用で若干遅れて活動報告会に参加いたしました。会場に入って第一の印象は、日曜の夜にもかかわらず、多数の参加者と熱心な若手の息吹でした。

1994年にスタートされた「ぷれいす東京」が、18年間の地道で力強い活動で継続されてきたことに感動しました。

エイズ30年の節目の中で「ぷれいす東京」が果たされてきた、支援・予防啓発・研究研修の連動した活動は大きな力になり、関係するたくさんの団体とのネットワークが構築され、ともに生きるというメッセージが定着しつつあります。

池上代表から生島代表にバトンタッチが行われ、若いスタッフやボランティアの活動報告をお聞きし継続への熱気が感じられました。

社会の偏見をなくし陽性者や家族を支援する活動の更なる前進を期待しております。

「魂のバトン」 community center akta 大島 岳

WHOで提案された健康の定義では、身体的・心理的そして「スピリチュアル」でも十全な状態と位置づけたことは周知の通りである。今日の報告会で組織でも当てはまるということを初めて実感した。各部門報告はどれも非常に感心するものであり、自らががん患者として「語りの共同体」を提唱する社会学者であるA.Frankに共感する私は、PGMや相談サービスでの報告には特に興味深く耳を傾けていた(もちろん私たちでも紹介してきたという理由もあるが)。

休憩を挟み、前代表の池上さんの講演がはじまる。ユーモア溢れた流暢な語りとともに、会場の空気感が一つになっていく包摂的(inclusive)な現象が生じていくのを感じる。社会の排除(exclusion)に相対してきた30年を振り返る語りに相応しい。内容は、trajectories of the life(自己の軌跡:自己のアイデンティティをライフストーリーに基づいて再帰的に理解/形成していくこと)だけでなくof society(偏見に満ちた社会)でもあり、そしてof the selves(私たちの軌跡)として、当事者を中心に様々なNGOが経験や希望を分かち合いながら、行政や医療と協働して支援と予防活動を進め偏見を低減を目指し活動してきたことの証言である。

「人間は社会を変えることができる」。30年の活動という根拠に基づく最後の力強いこのメッセージは、言霊となり聴衆全員が受け取っただろう。そして、私もその例外ではない。



相談部門の報告(左から、牧原、神原、生島)



性の健康世界学会のゴールドメダルです!



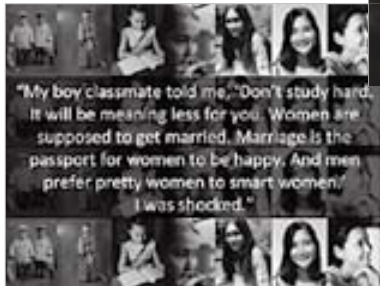
新旧代表のツーショット



「私とエイズの30年」  
はじまりはじまり...



卒論をベースに執筆した処女作  
「アメリカ女性解放史」が出版  
される



同級生の男子が言いました  
“ 女が勉強して何になる ”



“ We Love Diversity ”  
ハワイ、そしてミルトン・ダイヤモンド



帰国 / 1994年 第10回国際エイズ会議  
(横浜)



1994年 ぶれいす東京設立



# NLGR + 2012

恒例となったNLGR+( Nagoya Lesbian & Gay Revolution Plus )が今年も名古屋市の栄にある池田公園にて行われました。Gay Friends for AIDSがCBO合同ブースに参加・出展をして、ぶれいす東京の活動紹介や資料の配布を行いました。

「楽しみながらHIVのことも『NLGR+2012』」 近藤  
6月2日(土)~3日(日)に行われたNLGR+2012、初めて参加するのに直前まであまり情報がなく、家を出るのも少し遅れ、多少不安が残る中、名古屋へ向かいました。  
今回はHIV/AIDS啓発団体のCBO共同ブースということで展示物は少なかったのですが、各地のご当地コンドームを始め各団体の冊子、フライヤー、そして来場者の方へブースでお出しする各地名産のお菓子が大量にありました。HaaT えひめでは独自企画としてワンコイン以上の寄付で塗り絵体験と缶バッジ(イラストはaktaなどのコンドームのイラストを描いた愛媛のSUVくん)のプ

レゼントを行っていました。  
ブースの中からステージの様子を見つつ、ブースの他の団体のスタッフや来場者の方と話をし、コンドームや配布物やお菓子を配り、あっという間に2日間が過ぎていきました。  
感動的な同性結婚式、バルーンリリース、天気にも恵まれ過去最大の参加人数になりました。またその裏で、一生懸命働くNLGR+のスタッフの皆さんの姿も印象に残りました。  
スタッフで行けるかどうかわかりませんが、また来年も参加したいと思いました。

ぷれいす東京とジャンププラスが7年にわたって取り組んできた「長期療養シリーズ」の成果を、WEBサイトで見ることができるようになりました。4月21日に大阪医療センターにて行われたシンポジウム「HIV陽性者のいま～多様化する長期療養時代のニーズ～」の報告をあわせてお届けします。

WEBサイト「HIV陽性者の視点で読み解く 長期療養時代」「長期療養時代」となつたいま、HIV とともにくらししていくということは、HIV陽性者にとっていったいどんなことなのでしょう。そこにはどんな課題があるのでしょうか。医療的側面だけではない様々な課題があるはずですが、日本ではそういった調査はほとんど行われてきませんでした。そこで、ぷれいす東京とジャンププラスは、共同プロジェクト「長期療養時代シリーズ」に取り組むことになったのです。

このプロジェクトの目的は、HIV陽性の当事者の視点で様々な課題を明らかにして、その結果を当事者に還元したり、社会環境に働きかけたりすることです。そのために、インタビュー調査やアンケート調査などを行い、結果をまとめて冊子にしたり、シンポジウムを開催したりしてきました。さらに、約7年にわたるこのプロジェクトで得られた成果を、WEBサイトに掲載してより多くの人にご覧いただけるようにしようということになりました。昨年度より準備を進めてきましたが、4月21日に新

WEBサイト「HIV陽性者の視点で読み解く 長期療養時代」をオープンすることができました。

このサイトはより幅広い人たちにご覧いただけることを目指して作られています。当事者である HIV陽性者や、その周囲の人たち、HIV に携わる医療従事者や支援者はもちろんですが、HIV の経験が少ない医療従事者や保健福祉などの専門職にも、ぜひご覧いただきたいと考えています。

長期療養にともない、HIV との接点は少数の HIV専門機関から、多数の一般機関へと広がっています。歯科や透析クリニック、介護施設などは待たなしと言えるでしょう。就労支援や企業の取り組みも必須となるでしょう。メンタルや薬物などの周辺領域との連携も急務となっています。多様な立場の人たちが、HIV の実情を理解することで、HIV陽性者がより自分らしく生きていくための環境づくりが実現することを信じています。

プロジェクトでは多くの陽性者の皆さんに、アンケートの回答やインタビュー協力をするなどして経験を共有していただきました。この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

<http://chokiryoyo.ptokyo.com/>



## シンポジウム

### 「HIV陽性者のいま～長期療養時代のニーズ～」

長期療養時代シリーズのひとつの区切りとして、4月21日に大阪医療センターにてシンポジウム「HIV陽性者のいま～長期療養時代のニーズ～」が開催されました。HIV陽性者、支援者、医療・保健・福祉・教育の専門職、行政関係者、研究者など様々なバックグラウンドを持った100名近い参加者で会場がいっぱいの盛会となりました。

前半は、2007年からこのプロジェクトに研究者として関わってきた井上洋士氏から、長期療養時代シリーズの特徴である、当事者の視点を生かして生活にフォーカスした調査の意義について述べられ、さらには、その大変さとやりがいについても語られました。次いで矢島からは、新たに開設されたWEBサイトの紹介とともに、当事者が複数の役割を持ちつつ調査に参画することの難しさや、研究者との協働の意義についても触れさせていただきました。

後半は、全国から7名のHIV陽性者が登壇してのトークショーという、かつてない画期的なものでした。地域、陽性と知った時期、感染経路、当事者活動への関わりなども様々。自身の経験や周囲のHIVに対するイメージ、医療との関わりの中で感じる問題点、大都市と地方の環境やプライバシーに関する感覚の差、同性愛者/女性/既婚のMSMの直面する課題など、多くの話題が展開され、あっと言う間に時間切れにて終了となりました。充実しつつも、今後のさらなる開催を期待されるものとなりました。

#### [プログラム]

1. 長期療養時代シリーズを振り返って  
井上 洋士(放送大学)  
矢島 嵩(ぶれいす東京)
2. HIV陽性者7名によるトークセッション  
テル(大阪)  
真野新也(名古屋)  
しげ(広島)  
藤原良次(広島)  
山本(沖縄)  
矢島 嵩(東京)  
高久陽介(JaNP+/司会)

主催：ぶれいす東京、ジャンププラス

後援：鳥居薬品株式会社

協力：CHARM/エイズ&ソサエティ研究会議/  
エイズ予防財団/りょうちゃんず/follow/  
BASE KOBE/さぼーと京都/MASH大阪/  
関西HIV臨床カンファレンス

#### [参加者アンケートの自由記述より抜粋]

- ・陽性告知を受けた患者さんへの対応を考えるために参加しました。外来で限られた時間の中でどのようなことができるのか、日々悩む毎日です。
- ・「私を知る」と、「私たちを知る」とは違うというのは同感です。
- ・告知について、いろいろな感じ方があるんだなあと思

った。

- ・感染年により、受け取り方、社会の様子が違ってくるのだなと改めて知りました。
- ・とても勉強になりました。今回の中で出てきた地域差(医療への関わり方やサポートについての)について、今後もいろいろと関心を向けていきたいと思います。
- ・HIV陽性者、1人1人多様性をもって生きているんだと再確認できたことは、大変有意義だったと思う。
- ・告知前からの病気のイメージが大切。そのためには全ての人に正しい知識の普及が大切だと思いました。
- ・地方の中で本研究の成果を周知して頂く取り組みが欲しいです。パンフ、WEBの医療機関(医師)へお願いします。
- ・患者さんへのサポートをするときに、今日聞いたこと、感じたことを活かしたいです。
- ・井上先生の講演をもう少し、ゆっくり長く聞きたかったです。トークセッションでは、一言、一言、心に響いてきました。しかし、もう少し絞った話題になれば、もっと理解が深められたのではないかと思います。
- ・この4月からHIV診療に関わるようになって、まだ陽性者の方々の意見を聞く機会があまりなかったのも、とても参考になりました。
- ・当事者のリアルな声がたくさん聞けて、とても感銘を受けました。WEBサイト、覗かせてもらいます。
- ・貴重な研究成果や、HIV陽性者の方々の生の声を聞かせてもらえて、大変参考になりました。医療者側の価値観でものを言ったり、押し付けたりしないよう気をつけなければいけないと学びました。今日の調査結果から出された冊子を手に入れたいと思いました。
- ・後半のトークセッション、テーマをもう少し絞ってもよかったかも。より「生活」に近いことをテーマにして。
- ・ファシリテート研修、大事です。藤原さんの指摘のように、立ち上がったグループのサポート、大事です。
- ・拠点病院(中でも機能している病院)だけが患者さんに対応すればいい、という時代ではないのだと皆さんのお話を聞いて思いました。
- ・当事者が関わり、活動することの意味がとても大きいと感じるような内容でした。
- ・率直な意見が聞けて、とても参考になった。生の声は強いです。
- ・長期療養になってくるにつれ、ニーズが多様になり、それらに対応するのが難しくなっているように思います。また、いつも思うのですが、東京とそれ以外の地方との医療の差を感じます。
- ・HIVは今まで誰でも簡単に受け入れることではないが(自分の国、こういうことまだ拒んでいます)やはりこんなプログラムが何回かあればいいと思います。
- ・女性とHIV、地域とHIVetc、これからも指針を出していく必要のあるテーマを明らかにして頂きました。
- ・地方でどのように市民活動の組織を作っていくか、模索している。とても参考になった。
- ・調査とか見方とか、色々な視点があることが本当に実感できました。一方通行じゃない調査というか、姿勢って大事だなと思えました。

(報告：矢島 嵩)

# ネスト・プログラム

6月9日に行われたシリーズ“ 専門家と話そう ”の第11回「薬剤師と話そう」と、5月21日に行われたトークサロン「介護職として働く陽性者のミーティング」の参加感想文をお届けします。

## シリーズ“ 専門家と話そう ” 第11回目「薬剤師と話そう」

このシリーズの第11回目となる「薬剤師と話そう」が6月9日に行われました。ゲストは、HIV診療の現場で働く薬のプロである薬剤師、吉野宗宏さん(大阪医療センター 薬剤科)、関根祐介さん(東京医科大学病院 薬剤部)、柴原 健さん(国立循環器病研究センター 薬剤部)の3名、参加者は22名でした。丁寧に参加者からの質問に答えていただき、貴重な学習会となりました。

### [ 参加感想文 ]

知っておかなければならない薬のことを、勉強するいい機会になると思って参加してみました。前半は、基本的な説明と新薬開発や薬剤組合せの新動向について、「〇〇となっています」というパンフレットレベルの説明だけでなく、経験や知識をもとに「私見ですが自分としては〇〇」、「〇〇という例もあった」と、親切に説明をいただき、ありがたかったです。

また、これまでの治験や治療のデータの蓄積が、先々の自分たちの治療に役立っていくんだな、と認識することができました。

後半は、質疑応答の時間となり、たくさん質問が集まりましたが、先生方が連携して、「それは〇〇という理由だから」などと、一つ一つ率直にわかりやすく回答していただき、また、他の参加者からの自分では思いつかないような質問も伺うことができ、とても参考になりました。

貴重な機会を設けていただき、ありがとうございました。  
(都内在住 男性)

先日は薬剤師さんを囲み、貴重な話を聞く機会を作って頂き有り難うございました。パンフレットにはない現場の薬剤師さんがまとめたスライド説明で非常に勉強になりました。また、私も含め個々の皆さんの質問にも丁寧に答えいただき有り難うございました。

今まで完治が出来る画期的な新薬の登場ばかりを願っていましたが、長期に服薬する事を考えれば、より副作用の少ない、肝障害、腎障害などを起こしにくい薬が開発されていく事もとても重要なのだと考えさせられました。そういった薬剤が次々に開発され、速やかに我々の手に届いてくれる事を望んでいます。

又、直前のミドルミーティングでも話題になっていましたが、願わくば国産やジェネリックの薬剤で薬価を抑え、私達が援助して頂いている公費負担が少しでも減ればと思っています。

勉強不足で話に付いていけない部分もありました。自身でも薬の知識を持ってもう一度あのような勉強会に臨めたらと思います。 プロジェクターの位置が低くて後の方の席の人たちは見づらかったかもしれせん。

(40代 男性)



ゲストの(左から)関根さん、柴原さん、吉野さん

自分は2009年に急性期感染でわかり、CD4が少なくウィルスが非常に多い状態から感染を知り、1度CD4が上がりウィルス量も減り、その後は徐々にHIV感染症が進行していく状態を確認しながら通院をしていました。

HIV感染直後に自分の感染を知ったので、内臓の機能の状態の把握や、薬剤ごとの副作用の把握ができ、医師や薬剤師などの医療スタッフや、陽性者支援の専門家や、周りの陽性者の意見を聞きながら、積極的に薬剤を自分の意思で選択し、CD4が500以上の状態でしたが、告知後1年の節目で服薬開始を選択しました。

自分は服薬1回にこだわるよりも食事に関係なく服薬できることを優先し、アイセントレス+ツルバダにしましたが、今回のお話を聞いて、人によってはHIVの進行状況によっては、肝臓や腎臓の負担の大きさから服薬の選択の幅が狭まることも知りました。

薬剤によっては、食後に服薬する必要があるものもあります。その理由は薬剤によって違い、胃酸で分解されないと吸収されにくい薬剤、脂肪に溶解し吸収されやすくなる薬剤があったりとか、薬剤が吸収されやすくするためには目安として何Kcal摂取する必要があるなどという事があるということも知りました。

今後も服薬を続けていくためにも、何のために服薬しているのか、どう服薬していったらいいのかの再確認が出来、良い体験になりました。HIVが進行すれば薬剤や治療の選択肢も狭まりますので、HIVの抗体検査は定期的に受検して欲しいと改めて思いました。

(かなめ)

### トークサロン

#### 「介護職として働く陽性者のミーティング」

介護職として働く陽性者の第1回目のミーティングが5月21日に行われました。参加者は2名でしたが、内容の濃いとても充実したミーティングとなりました。

### [ 参加感想文 ]

介護の仕事始めて丸五年になり、病気が発覚し四年目。発覚して自分自身色々葛藤があり、介護の仕事続けるか続けないか。何社か他企業面接などもしました。けど、介護の仕事が好きなので現実から逃げたらダメだって思い結局辞めなくて続けています。

今回の、ミーティングで色々ディスカッションし

仕事に対して、病気に対して誰にも言えない疑問等など話し合いをし、不透明な部分が明確になり、人それぞれ仕事に対する価値観、職場の仕事の違いがありますが、同じ介護職、良い意味で刺激になり、勉強になりました。また、頭でっかちになっている自分自身にも気づきました。

とても充実感あるミーティングでした、またミーティングがあれば是非出席したいと思います。ちなみに、自分は、職場の理解もあり、HIV陽性者、健常者と差別無く働き、二年前に正社員になりました。今は、リーダー業務も行ってます。(ヒロシ)

自分が介護職に就いたのは、それしか採用してくれる会社がなかったのが本音です。障害者雇用で約5年、100社以上面接したかと思っています。自分の以前のスキ

ルが専門職のせいもあったかとは思いますが、採用には至りませんでした。

そんな時、たまたま東京都の支援斡旋事業で介護職の資格を取る講座を発見し、応募し資格を取りました。その後、自分に適正があるか派遣社員として実務を覚えながら、東京都社会福祉協議会の合同面接をへて、採用されたのが3年前です。

ぶれいす東京で、陽性者として介護職員として働く不安を吐露する機会が少なくなき、生島さんから「同じ不安を抱えている人は少くないよ」と話を聞き、今回ミーティングをセッティングしてもらいました。

雇用に対する不安、感染に対する不安、利用者に対する不安...話してみて結構楽になる自分に気づきました。また次回も是非参加して、次に繋がるヒントを探せたらいいなと思っています。(タツヤ)

## 部門報告 (2012年4～6月)



### ホットライン

エイズ電話相談 ぶれいす東京および東京都委託)

#### 相談実績報告

##### —ぶれいす東京エイズ電話相談—

	4月	5月	6月
日数(日)	5	4	4
総時間(時間)	20	16	16
相談員数(延べ人)	5.5	4.5	5.5
相談件数(件)	33	42	30
うち(男性)	26	39	28
(女性)	7	3	2
(不明)	0	0	0
陽性者相談	2	0	0
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	6.6	10.5	7.5

##### —東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	4月	5月	6月
日数(日)	13	12	14
総時間(時間)	39	36	42
相談員数(延べ人)	33.5	29.5	37.5
相談件数(件)	168	188	214
うち(男性)	119	147	150
(女性)	49	41	64
(不明)	0	0	0
陽性者相談	2	2	2
要確認相談	0	0	2
1日平均(件)	12.9	15.7	15.3

#### ホットライン部門・活動状況 ( )内は出席人数

4月 15日 世話人会(5名)  
スタッフミーティング(15名)

- 20日 東京都電話相談連絡会(3名)
- 21日 個別ミーティング(2名)
- 5月 9日 個別ミーティング(2名)
- 11日 東京都電話相談連絡会(3名)
- 15日 メーリングリストミーティング(2名)
- 20日 世話人会(5名)
- スタッフミーティング 陽性者対応(16名)
- 6月 8日 東京都電話相談連絡会(2名)
- 17日 世話人会(4名)
- スタッフミーティング(11名)
- 23日 個別ミーティング(2名)
- 25日 東京都ボランティア講習会  
「エイズ予防のための戦略研究と今後のMSMへの対策について」(5名)
- 27日 個別ミーティング(2名)

毎年4月のスタッフミーティングで、年間の数字を基に相談内容を振り返る時間を取っています。終わってみればあっという間の1年なのですが、現場で見ていると、様々なことが起こり、それに向かって全員で解決していく。その力強さを感じます。チームワークを支えているスタッフに感謝です。

(報告：佐藤)



### バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

#### バディ担当者ミーティング(4-6月実績)

4/5：中止 4/19：7名  
5/5：5名 5/17：4名  
6/7：中止 6/21：8名  
個別ミーティング 8件



## 利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の18名の方に31名のパディスタッフを派遣

## 活動内容(2012年6月末現在)

派遣継続中	17件
在宅訪問	12件
病室訪問	2件
派遣休止	3件

## 4月～6月中の動き

- ・新規派遣 2件
- ・派遣終了 1件
- ・派遣調整 13件

## 8-10月のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00 / 奇数月第1土曜 11:00

8/2(土)

9/1(木)

10/4(土)

木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング: 毎月 第3木曜 18:30

8/16(木)

9/20(木)

10/18(木)

## パディの現場から

新規派遣が2件ありました。1件は通院/入院時の通訳の依頼、もう1件は自宅での家事援助の依頼で、複数のパディに活動してもらいました。また、残念なことに2月から継続していたターミナル期の方が、4月に亡くなり活動が終了となりました。なお、今年は新旧のパディに活動してもらい機会が多くなっています。(報告: 牧原)



## ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

## ネスト・プログラム参加状況(2012年4-6月)

### グループ・ミーティング

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM 第64期)  
(参加者6名)

5/19

6/3

6/16

6/30(修了)

- ・ミドル・ミーティング

4/15(15名)

5/12(19名)

6/9(19名)

- ・異性愛者のための交流ミーティング

5/18(9名)

- ・陰性パートナー・ミーティング

4/2(6名) 6/2(8名)

- ・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)  
4/24(4名)

## 学習会

- ・シリーズ“専門家と話そう”第11回「薬剤師と話そう」  
ゲスト 吉野宗宏さん(大阪医療センター 薬剤科)  
関根祐介さん(東京医科大学病院 薬剤部)  
栗原 健さん(国立循環器病研究センター 薬剤部)

6/9(土) 参加者22名

- ・ストレス・マネジメント講座第16期

5/28(3名)

6/25(8名)

## トークサロン

- ・介護職として働く陽性者のミーティング

5/21(2名)

- ・就職活動を報告しあう会

4/21(3名)

5/16(3名)

6/16(12名)

## ライブラリータイム

4/19(2名)

## ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・web NEST運営委員会

4/16(2名、2名)

5/14(2名、2名)

6/18(2名、2名)

## ネスト・ニュースレター

4/9: 4月号発行

5/14: 5月号発行

6/14: 6月号発行

## JaNP+ / ぶれいす東京共同プロジェクト

4月17日にWEBサイト「HIV陽性者の視点で読み解く 長期療養時代」が開設されました。7年にわたって実施してきた、当事者参加によるHIV陽性者調査の成果を、WEBサイトでご覧いただけますので、ぜひ訪れてみてください。

「HIV陽性者の視点で読み解く 長期療養時代」

<http://chokiryoyo.ptokyo.com/>

また、4/21(土)に大阪医療センターで開催したシンポジウム「HIV陽性者のいま～多様化する長期療養時代のニーズ～」には、100名近くの参加がありました。

詳しくは5ページをご覧ください。(報告: はらだ)



## Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

## Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 6件 (1日平均1.50件)

5月 12件 (1日平均3.00件)

6月 10件 (1日平均2.00件)

## 聴覚障がい者向けのメール相談対応

4月：0件  
5月：0件  
6月：0件

## NLGR+、参加してきました

今年も名古屋で開催された NLGR+ に参加してきました！

今回は、各地で予防啓発や支援の活動をしている CBO の合同ブースに加わり、ぶれいす東京の紹介やさまざまな資材の配布を実施したほか、他団体との交流も例年より多めになりました。当日ブースでご一緒させていただいた中には、HIV の活動グループだけでなく、三重ダルクさんのスタッフの方もおられ、HIV をとりまくネットワークの広がりを実感する機会となりました。

詳細は4ページをご覧ください。

(報告：sakura)



## HIV陽性者への相談サービス

### 相談実績 2012年4～6月

	4月	5月	6月
電話による相談	137	163	168
対面による相談	34	57	48
E-mailによる相談等	133	99	161
うち新規相談	31	29	21

メール新規は含まず

### 4～6月の新規相談者の属性(N=81)

陽性者： 42人(男性：39 女性：3)  
パートナー：13人(男性：9 女性：4)  
家族： 9人(男性：1 女性：8)  
専門家： 7人(男性：4 女性：3)  
判定保留： 6人(男性：5 女性：1)  
その他： 4人(男性：3 女性：1)

### 4～6月新規相談者の情報源(N=81) 重複あり

WEB(PC/携帯サイト含)：35件  
以前から知っていた：8件  
医療関係者：6件  
他の陽性者：6件  
冊子/パンフレット/チラシ：6件  
電話相談(ホットライン)：3件  
パートナー：3件  
家族：2件  
拠点病院/専門クリニック：2件  
他団体：1件  
障害者職業センター：1件  
ネストニュースレター：1件  
保健所：1件  
不明：6件

医療関係者は医師:3件、看護師:2件、カウンセラー:1件

### 4～6月新規相談の内容

#### 【ぶれいす東京のサービス利用、問い合わせ】(関東、東海、近畿)

- ・ぶれいす東京につながることについての連絡。計3件。
- ・ネスト・プログラムへの参加、利用登録等。計2件。
- ・PGMインテークで来所。計4件
- ・ライブラリータイム参加希望。
- ・ミドル・ミーティング参加希望。計2件。
- ・ボランティア参加希望。

#### 【検査や告知に関する相談】(北海道/東北、関東、甲信越/北陸)

##### 〔判定保留〕

- ・判定保留で確認検査の結果が出るまでの不安。計3件。
- ・保健所の検査を受けたら偽陽性(判定保留)とでた。病院で受けたら「今の段階では陰性」と言われた。

##### 〔陽性者〕

- ・自分も妻も陽性だが現在未受診。症状はないが病院に行った方がいいのか？

#### 【告知直後の漠然とした不安】(関東、東海、近畿)

- ・感染が判ったばかりのため漠然とした不安。計7件。
- ・これからの生活に関するイメージについての相談。計2件。
- ・他陽性者がどのようにしているのか知りたい。
- ・身障手帳の取得を促されている。プライバシーが不安で踏み切れない。計2件。

#### 【対人関係に関する相談】(関東、甲信越/北陸、東海、中国/四国)

- ・協議離婚に関する相談。計2件。
- ・パートナーへの通知。計2件。
- ・結婚後の親戚を含めた周囲への通知について。
- ・パートナーが欲しいと思いつつ、病気のことがひっかかってしまう。
- ・子づくりについて。

#### 【生活に関する相談】(関東)

##### 〔就労〕

- ・今後の就労について。計2件
- ・転職について、障害枠も検討した方がいいかどうか。
- ・介護職として働く事を制限されている。
- ・派遣で就職先があるがこの先が不安。
- ・解雇に関わる相談。
- ・高齢だが障害雇用はあるか。

##### 〔その他〕

- ・生命保険について

#### 【制度に関する相談】(関東)

- ・自立支援は自治体ごとに差があるのか。
- ・身体障害者手帳取得や等級についての相談。計2件。
- ・健康保険について。

#### 【心理や精神に関する問題】(関東、中国/四国)

- ・薬物使用/依存について
- ・セックス依存について

- ・鬱傾向のため相談。
- ・人間関係の閉塞感。計2件。

【病気や病態の変化や服薬について】〔東海、中国/四国〕

- ・これからの受診先について。
- ・服薬後の副作用について。
- ・服薬前の副作用の不安について。

【医療体制や受診に関する相談】〔東海〕

- ・医療機関の選択。計2件。
- ・医療従事者とのコミュニケーションについて。

【周囲の人からの相談】〔関東、東海、近畿、中国/四国、海外〕

- ・(妻)通知を受けたためHIVについての基礎知識が知りたい。
- ・(妻)パートナーがスクリーニングで陽性。確認検査待ち。
- ・(妻)夫の相談に同席。
- ・(夫)感染しているということは浮気によるものではないか。
- ・(パートナー候補)相手とのSEXについて。
- ・(陰性パートナー)セイファーSEXについて。
- ・(陰性パートナー)今後の治療費や生活、生命保険について。
- ・(陰性パートナー)元パートナーによるストーカ行為について弁護士紹介。
- ・(陰性パートナー)通知を受けての混乱。計3件。
- ・(陰性パートナー)パートナーとの関係性について。計2件。
- ・(陰性パートナー)今後のパートナーの支援について。
- ・(母)子どもの婚約者が陽性。これからの結婚生活について心配。
- ・(母)生活している中で家族間での感染について。
- ・(母)子どもが鬱症状だが副作用の可能性はあるか。
- ・(母)子どもの離婚に関する相談。
- ・(母)今後の生活についての相談。
- ・(母)子どもとの関係性、今後の治療についてなど。
- ・(きょうだい)母と面談希望のため来所。
- ・(きょうだい)日常生活での不安。
- ・(友人)精神疾患のある陽性者の友人への支援について。
- ・(知人)陽性者が住んでいたり、近隣に住んでいる場合、周囲での感染の可能性はあるか。

【専門家からの相談や連携】〔関東〕

- ・(保健師)4月から地域の担当となったため拠点クリニックについて教えてほしい。
- ・(就業移行事業所職員)利用者とのトラブルについての相談。
- ・(医療ソーシャルワーカー)先日陽性が判明した方でも加入できる生命保険があったら教えてほしい。
- ・(障害者紹介企業担当者)企業紹介について。
- ・(看護師)入院のコミュニケーションについての相談。
- ・(福祉事務所委託事業)生活保護受給者の就労支援担当者より挨拶。
- ・(調剤薬局)初めてHIVの薬を処方するが、感染についてなにか気をつけることはあるか。

(報告：牧原/福原/生島/神原)



研修・研究部門

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者のメンタルヘルス等を支援する研究」

(研究代表者：樽井正義)

薬物使用を含む、HIV陽性者等のメンタルヘルスに焦点をあてた研究班が今年度からスタートしました。樽井理事を始め、ぶれいす東京のスタッフが参加しています。くわしくは、「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」

(<http://www.chiiki-shien.jp/>)をご覧ください。



- ・4月20日(金)：平成24年度第1回班会議を開催(於ぶれいす東京)。研究代表者・分担者ら8名参加。
- ・6月2日(土)：平成24年度研究計画ヒアリング会で発表(於新宿オークタワー)。

HIV陽性者の生活と服薬アドヒアランスに関する調査

(委託元：ヤンセンファーマ株式会社)

製薬会社の依頼で、HIV陽性者の服薬に関する調査を行っています。4月までに抗HIV薬の服用経験があるHIV陽性者を対象とした、インタビューによる事例収集(20名)を行い、それらをもとにしたアンケートによる量的調査(200名程度)を7~8月に実施します。今後の調査結果から、生活者の視点を生かした服薬支援ツールなどの作成を予定しています。

研修事業

職場研修

- ・6月8日(金)：建設・設計会社にて人権研修。参加者91名。
- ・6月20日(水)：建設・設計会社にて人権研修。参加者71名。

受託研修協力

- ・6月23~24日 シェア主催の青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修に協力。参加者11名。

(報告：生島/牧原/大槻)

新人ボランティア合同研修・オリエンテーションのご案内

ぶれいす東京では、今年度も活動に参加できるボランティアの募集と研修を行います。今年度募集を行うのは以下の活動です。

- ・ HIV陽性者のサポート活動「バディ」
- ・ エイズ電話相談の相談活動「ホットライン」
- ・ オトナの女性向け予防啓発活動「PEER Empowerment Project」
- ・ ゲイ向け予防啓発活動「Gay Friends for AIDS」
- ・ 事務・総務/発送のお手伝い等、ネスト・プログラムの運営サポート等

性別、年齢、セクシュアリティ、HIV/AIDSの知識や活動参加の経験の有無などは問いません。興味のある方は、どなたでも参加できます。ぜひオリエンテーションにご参加ください。活動に参加する/しないは、オリエンテーション終了後に決めていただいてもかまいません。ただし、ボランティア・スタッフとして活動を希望される方は、その後に行われる3日間の基礎研修を受講し、修了後必ず1年間は活動に参加できる方とさせていただきます。研修では、多彩な講師陣の講義やワークショップを予定しています。ご期待ください。

今年度のオリエンテーション・研修は下記の日程です。  
参加希望の方は、あらかじめメールか電話で必ずご連絡ください。

新人ボランティア・オリエンテーション

[日時]

2012年9月1日(土)  
14:00 ~ 16:00(受付: 13:45 ~)

[会場]

豊島区立生活産業プラザ「ECOとしま」  
多目的ホール(8F)  
東京都豊島区東池袋1-20-15  
(池袋駅東口より徒歩7分)

研修日程

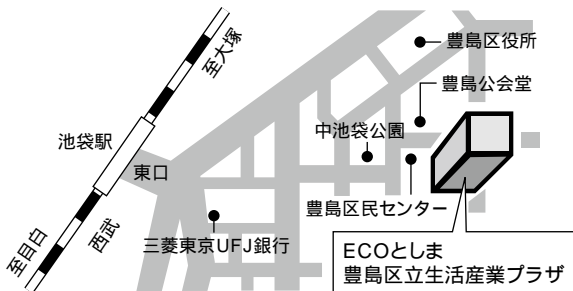
9月9日(日)  
9月17日(月・祝)  
9月22日(土・祝) (各日10 ~ 17時の予定)



昨年の研修風景...

研修内容や場所等の詳細については、オリエンテーションで説明します。

研修に参加したいがオリエンテーションは都合がつかない、また全日程への参加は難しいが活動したい、という方はご相談ください。



[当日のお問い合わせ先]

ぶれいす東京 携帯電話: 080-5387-8341  
(昼 13:00 ~)

[申し込み・問い合わせ先]

TEL 03-3361-8964(月~金 12 ~ 19時)  
E-mail: office@ptokyo.com  
担当: 牧原

編集後記

- ・ 夜寝る前や朝起きた時にも目の疲れを感じるが多かったのですが、パソコン用メガネ(レンズ)を使い始めてから、楽になりました。携帯端末とかよく使われる方にもオススメかなと思います。(こんどう)
- ・ 活動報告会の後、お約束の懇親会が開催された。久しぶりに池上さんのほろ酔い姿をみた。本当に長いあいだ、お疲れさまでした。今後も理事として活動を見守り続けてください。(いくしま)
- ・ ひとつの節目をお伝える号となりました。実は、僕も7年つとめてきた新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)のコーディネーターのバトンを渡し、この夏の盛りりにちょっとした手術のため入院することに。少しの静養ののちにまたNewsletterの編集に関しては続けていきますので、これからもよろしく願います。(やじま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ 403  
TEL: 03-3361-8964(平日 12 ~ 19時)  
FAX: 03-3361-8835  
E-mail: office@ptokyo.com

ぶれいす東京: <http://www.ptokyo.com/>  
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>  
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>  
Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)  
Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>